



2月はB型インフルエンザが流行

1月は新型コロナウイルスが増加し第10波の到来を思わせましたが、定点あたりの報告数は第5週(1月29日～)の22.7をピークに減少に転じ、第8週(2月19日～)は6.5まで少なくなっています。

一方、インフルエンザは週毎の定点報告数が15～20の範囲で推移し、横ばいの状態が続いています。コロナ前のような学級閉鎖が相次ぐ爆発的な流行はみられません。インフルエンザの型別の流行状況は、昨年まではA型一色でしたが、年が明けてからB型が始め、2月からはB型の割合が増え、第8週ではB型が9割を占めるまでになっています。

そのため、インフルエンザに複数回かかるお子さんも目立つようになりました。A→A、A→B、A→A→Bなどです。今シーズン、一度インフルエンザにかかっても、再度かかることがあるので注意してください。

溶連菌感染症

溶連菌感染症が流行しています。溶連菌とは細菌の一種で、正式には溶血性連鎖球菌と呼ばれます。

潜伏期間は2～5日、最初に現れる症状は喉の痛みと発熱です。咳、鼻水などの風邪症状がないのが特徴です。手足や顔面に小さな赤い発疹が出たり、舌の表面が赤くブツブツ(イチゴ舌)になることもあります。診断は簡易検査キットで行われます。

治療は抗生物質がよく効きますが、決められた期間内服してください。途中でやめたりすると再発したり、急性腎炎やリュウマチ熱などの合併症を起こすことがあります。登園は抗生物質を内服して24時間以上経過して下熱し状態が良ければ可能です。



2月の感染症情報

インフルエンザと新型コロナウイルスが流行の主体でしたが、2月中旬から、インフルエンザ、新型コロナウイルスともに減少してきています。インフルエンザの型は下旬からB型が優勢になりました。

感染性胃腸炎と溶連菌感染症が急増しました。感染性胃腸炎は突然の嘔吐で始まり半日程度嘔吐が続くお子さんが多いようです。溶連菌感染症もこれまでに多くの発生がありました。



2月の利用状況

2月の利用延べ人数は46人、1日平均利用人数は2.4人でした。年齢別では、1歳児11人、4歳児9人、2歳児6人の順でした。疾患別では、急性上気道炎と感染性胃腸炎が多く、その他インフルエンザやアデノウイルス感染症による入室がありました。

現在、新型コロナウイルスのお子さんの入室はお断りしています。今後、新型コロナウイルスの病原性の強さや重症度が変化してくれば、受け入れを検討しなければならない時期がくると考えられます。